

第3回三次市総合計画審議会 会議録

日 時	平成30年8月23日(月) 9時30分～11時30分
場 所	三次市役所本館3階会議室
議 事	(1) 第2次三次市総合計画(見直し版)たたき台について
委員等	<p><出席委員></p> <p>【会長】伊藤 敏安/広島修道大学 教授</p> <p>【職務代理者】細川 喜一郎/三次商工会議所 会頭</p> <p>音野 由美/三次市PTA連合会 母親代表</p> <p>岸田 立/三次市住民自治組織連合会 会長</p> <p>貞廣 和則/三次地方森林組合 参事</p> <p>島田 真由美/国際ソロプチミスト三次</p> <p>長尾 香織/NPO法人みわスポーツクラブ 理事</p> <p>林 昭三/三次広域商工会 会長</p> <p>麓 知子/三次市社会福祉協議会 理事</p> <p style="padding-left: 40px;">三次市民生委員児童委員協議会 理事</p> <p>前田 茂/公益財団法人三次市教育振興会 理事長</p> <p style="padding-left: 40px;">三次市文化連盟 会長</p> <p>政森 進/一般社団法人三次市観光協会 会長</p> <p>箕田 英紀/三次市公衆衛生推進協議会 会長</p> <p>安信 祐治/三次地区医師会 理事</p> <p>山岡 克巳/NPO法人こうぬシジミー・カーターシビックセンター国際交流協会 理事長</p> <p>道中 貢/国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長</p> <p>田高 和子/広島県北部厚生環境事務所保健所 保健課課長</p> <p>今川 朱美/広島工業大学 准教授</p> <p>西本 寮子/県立広島大学 副学長</p> <p><欠席委員></p> <p>岩崎 積/青少年育成三次市民会議 会長</p> <p>垣添 博子/三次市女性連合会 副会長</p> <p>富野井 利弘/三次農業協同組合 代表理事専務</p> <p>山崎 輝枝/三次市保育所保護者会連合会 会計</p> <p><事務局></p> <p>中村 好宏/三次市政策部 部長</p> <p>宮脇 有子/三次市政策部企画調整担当 課長</p> <p>桑田 秀剛/三次市政策部企画調整担当 係長</p> <p>中村 大明/三次市政策部企画調整担当</p> <p>豊永 美由紀/ 同 上</p>

(事務局)

開会に先立ちまして、皆様に一言お願いをさせて頂きたいと思います。本日、本審議会の傍聴を希望の方がいらっしゃいますので、開会に先立ちまして、委員の皆様にお諮り致したいと思います。

本審議会でございますけれども、会議の公開について特段の定めはございませんが、傍聴の希望がございますので、傍聴されることについてご意義がないということについてお諮りをしたいと思います。傍聴について、よろしいでしょうか。

<各委員「異議なし」>

ありがとうございます。ご異議なしとのことですので、本審議会を傍聴されることについてご了解をいただいたものと致します。

また、本審議会のご意見を記録するため、事務局におきまして音声の録音及び写真の撮影、また傍聴者の方から写真の撮影の希望がございますので、録音等をさせていただきますこと、また、本審議会のご意見をホームページ等で公開することにつきましてご了解をいただきたいと思っております。

1 開会

(事務局)

それでは、ただいまから第3回三次市総合計画審議会を開催致します。

本日は大変ご多忙のところ、ご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます、政策部長の中村と申します。よろしくお願ひ致します。

それでは、開会に当たりまして伊藤会長からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願ひ致します。

2 あいさつ

(伊藤会長)

<あいさつ(略)>

(事務局)

ありがとうございました。

では、議事に入ります前に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。

事前に送付をさせていただいております資料は、次第と資料の1から3です。本日お手元にお配りをさせていただいております資料は、差替え後の次第と資料4、第2回審議会でのご意見と今後の対応(8月23日回答分)と記載しております資料を配付させていただいております。あわせて、三次市子どもの未来応援宣言のリーフレットとその取組をまとめたA3の資料を配付させていただいております。不足等がございましたらお申し出いただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

では、ただいま出席いただいております委員は15名です。定足数に達しておりますので、これより議事のほうに入らせていただきます。

3 議事

(1) 第2次三次市総合計画(見直し版)たたき台について

(事務局)

ここからは議事に入らせていただきます。伊藤会長、よろしくお願ひ致します。

(伊藤会長)

最初に、審議会規則第10条第3項の規定に基づき、本日の会議録の署名委員を指名させていただきます。ご出席の方々のうち、政森 進委員と田高 和子委員に議事録署名委員をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、お手元の議事次第に沿って進めたいと思います。

まず、議事次第の(1)第2次三次市総合計画(見直し版)たたき台について、事務局から資料の説明をお願い致します。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(伊藤会長)

ありがとうございました。

今後5年間の政策や施策の基本的な方向をどうするかということで、事業評価や市民アンケート、市民まちづくり塾、住民自治組織等でのご意見、さらには審議会の委員の方々のご意見やご提案などを踏まえて課題を設定し、その上で3つの重点的な取組事項が提示されました。これをもとに、政策や施策の体系化を考えていきたいというお話でした。

今の説明につきまして、表現や用語、解釈の仕方等に対するご質問をはじめ、それぞれのお立場からご意見やご提案をいただければと思います。

(委員8)

I C Tの活用に関することですが、公共施設を管理する上で、合併以降、利用者の年代も変わってきており、課題等も生じているかと思えます。受付業務については、施設の利用を外部からでも利用できるよう、より簡単にできる方法等を期待しています。その際、条例の見直しも必要になってくるかと思えます。

(伊藤会長)

そういった時代の変化に対応しながら、条例についても、議会との対話の中で、対応していく必要があると思えます。

(事務局)

I C Tの活用については、今後5年間で活用していこうというもので、すぐにご期待に沿えるかどうかについては、なかなか申し上げにくいところがありますが、検討をしてみたいと思っています。その際に、必要であれば条例等の改正を行っていくことになると思えます。

(委員13)

これまでの説明をお聞きし、やはり一番大きな課題は、人口減少・少子高齢化であると思えます。人口減少・少子高齢化が、労働力の不足を生み、地域の維持・管理に影響を与えているように思えます。4つの挑戦の一つである「人口減少・少子高齢化社会に挑戦します」の中に「地域を発展させる新たな可能性の開拓に努めます」とありますが、この点が大事であると思えます。

例えば、7月の西日本豪雨災害についてですが、県内でも瀬戸内方面を中心に、甚大な被害が発生しています。三次市としても受け入れ支援等を通じて力になっていくことで、結果として、三次市の人口が増えたということも考えられると思えます。三次には働くところもありますし、アパートもあります。被災者の皆様のためでもあり、また三次市を維持していくことにもつながり

ます。この10年間の中での取組の中心として、人口減少・少子化高齢化への対応があげられると思いますが、日々の社会の変化の中でもっと踏み込み、みんなで知恵を出し合って施策を展開していけば、大きく変化することができると思います。

(伊藤会長)

今のご意見の趣旨は、資料4の3つの重点項目の2番目「“ツナガリ人口”の拡大」にも結び付いてくると思います。

(委員2)

三次市子どもの未来応援宣言のリーフレットについては、とてもわかりやすい資料だと思います。このことに関連して、資料4の「子どもの未来応援」について、「貧困」という言葉がいくつか出てきますが、子どもの貧困については、親の貧困に課題があるのではないかと思います。その部分が、資料では読み取れない気がします。子どもへの支援についてはいろいろと書かれているのですが、子どもの家庭を支えていく必要があろうかと思っています。

(委員21)

今のご意見に関連して、前回お伺いした予防接種の接種率の状況も関係してくると思います。92%の接種率ということは、約10人に1人が注射を受けていないということになると思いますが、そのご家庭にどういう問題があるのかということにつながると思います。親の無責任・無関心が原因かもしれませんが、就労の問題もあると思います。資料の中には、就労支援や女性の働く機会の提供など書かれていますが、具体的にどういう支援があるのかというのは見えていない状況です。就労の機会を増やすためにICTを活用されるのであれば、活用の際には教育も必要になります。生活を支えるだけの各家庭の生活の基盤をつくるのが、この総合計画の中で謳われているかどうかということであると考えます。

(伊藤会長)

貧困の問題については、親から子へ、子からさらにその子へという連鎖があることが一番の問題です。資料2の5ページに、市民の働き方について記載されていますが、パートなどの非正規職員の割合が増えているということが、晩婚化や少子化といった問題にもつながっている可能性があります。

したがって、雇用のあり方の改善や女性の就労の促進といった形で、何らかの形で結びつける必要があるように感じますが、重要な問題は、家庭・家族の問題だけではすまないからこそ、地域としての受けとめ方が重要であるということで、それが、三次市子どもの未来応援宣言に結びついていると思います。

(事務局)

親の貧困や経済的な対応については、本日お配りしたリーフレットには詳しい内容を記載しておりませんが、この応援宣言の実現に向けて、「三次市子どもの未来応援宣言取組基本方針及び個別事業」を整理し、具体的な取組をまとめています。

ご指摘の点については、重要な点と認識しており、その子どもに対する支援だけではなく、経済的に困っている親に対する幅広い支援ということで、例えば、ひとり親家庭の経済的な支援や相談支援体制などの充実を図っているところです。

(委員2)

最近、家族や親と子の心がつながっていないというような心の貧しさがあるように感じます。子どもたちがこれから生きていく上で、様々な力を身に付ける必要があると思いますが、心の安定が重要であると感じています。

(伊藤会長)

その他、様々な環境や社会状況の変化の取り上げ方、それらを踏まえた3つの重点項目が適切かどうか、あるいはもっと補充すべき視点はないかどうかと、視点からご議論をいただければと思います。

(委員5)

資料4-2の中に、コミュニティの活性化として、常会の加入促進がありますが、特に災害等の関係については、地域の住民自治組織や自主防災組織といった地域コミュニティだけでは対応できない状況があります。常会への加入については、それぞれの考え方があって、入られない方については、地域の助け合いや支援から外すのかと言われると、そういうことにはなりません。ここに書いてある常会への加入促進が何を意味しているのか分かりませんが、そこに住んでいる方が全員で防災やつながりを認識し合い、協力し合っていくような方向が良いかと思います。

(事務局)

住民自治組織との意見交換をする中で、常会に入っていない方との防災面でのつながりが課題であるといった声をたくさんいただきました。

市としましても、常会の加入につきましては、これまで市民課の窓口で声かけはしていましたが、もう少し強化をしていかななくてはいけないと考えているところです。

今ご意見いただいたことを踏まえ、重点項目の「ツナガリ人口」の拡大についても、検討していきたいと考えます。

(伊藤会長)

資料4-2では、地縁型コミュニティの充実・強化をしながら、目的型のコミュニティとつなげていこうということが書かれています。その方策として、常会の加入促進がありますが、確かに常会に入ろうが入ってなかりや、みんなでつながりや絆を強化することは、大切だと思いますが、常会に入ってくださいというのが、基本的な形なのだろうということが読み取れます。したがって、常会に入らなくても絆を深めつつ、できるだけ入っていただくということが一番望ましい方向ではないかと思いました。

(委員11)

先程のご意見に関連して、私の地域の常会は崩壊しつつある状況です。40年前に家を建てて、今、残っている人は高齢者世帯になり、常会に入る必要性がなくなると、出られたいと言われる方がいらっしやいます。なんとか引き止めているような状況で、市内にはおそらくそんな状況が多々あると思います。資料2の4ページに「地域コミュニティの再構築が早急の課題」とありますが、そういった状況にあるという認識は非常に重要だと思っています。

(委員21)

質問ですが、お葬式は常会とか隣組で運営するものですか。

(委員11)

最近は、民間ですべてされているようで、常会は受付だけするような状況です。まちなかでは、若い人が出られていて、自分の面倒を見てもらえないといった状況もあります。防犯灯の管理や災害が起きた時の助け合いなど、地域コミュニティをどう再構築していくかということを具体的に考えていかななくてはいけない時代だと思います。

(委員12)

資料4-1については、どちらかというと行政側の計画のように思われます。市民の認識の違いは必ずあるものですが、行政が支援することがすべてではなく、市民一人ひとりが自立する方向に施策の展開を考えていけば、解決策が生まれることもあるかと思います。もう少し、市民一人ひとりが自覚・自立するような内容を盛り込んでいただければと思います。

(伊藤会長)

関連した表現としては、資料2の7ページに「自治体は真に行政が担うべき役割に特化し」という内容があります。従来は、行政にお願いすれば何でも出来ていた時代でしたが、財政状況が厳しく様々な行政課題が出てきている中で、行政の役割として、今後は、特化すべきところに特化し、その他のことについては、市民の自助努力や市民同士の助け合いが重要になると思います。

このことについては、7ページだけではなく、前段の部分にも書いてあると思いますので、必要でしたらもう少し表現を加えるということも検討していただけたらと思います。

(委員9)

全体的な考え方としては、ご提示いただいた資料で良いかと思います。

一点、合併してからかなりの年数が経っていますが、市内では、合併前から様々な施設や建物が建設されています。建設される際には、基本理念等を作られていると思いますが、その点を再度、認識した上で、計画を見直されるべきだと思います。どういう目的・理念で建てられているのか、もう一度研究され、様々な施策を立てていただきたいと思います。

(委員11)

この総合計画が策定されて、今回の見直しが必要になった経緯等についてはここに書いてあるとおりだと思いますが、どこにでもあるような総合計画であれば、市民へのインパクトが非常に弱いと思います。三次独自のものがここに盛り込まれるか、もしくは、他の市町に比べて質的にもレベルの高い計画にすることが必要だと思います。三次市にお願いしたいことは、やはり現状をよく見て、どう解決・改善していくのかというのをしっかり検討されるべきだと思います。

例えば、「三次市子どもの未来応援宣言」については、内容としては非常に良いものだと思いますが、実際耳にする現場の声には、不平不満が多くあります。そういう声をよく聞いた上で、取組を考えていただきたいですし、今回の豪雨災害についても、常に被害が出ているところの実態を把握した上で、進められるべきだと思います。

(事務局)

今回の豪雨災害については、現在市としても、今回の対応や今後の取組について検証作業を進めているところです。今回の総合計画の見直しにおきましても、先程、資料4でご説明をさせていただいたとおり、これまでの考え方がなかなか通用しない状況になっている中、重点項目の一つとして掲げ、様々な面から考え直していく部分も必要かと思っています。皆様のご意見もしっかりいただきながら、より良い取組を進めていきたいと考えています。

(伊藤会長)

第2回の会議においては、市民アンケートや中高校生アンケートの結果の紹介がありました。全般的には、まちのイメージ評価や幸せ度が上向いていましたが、個別に見ると様々な問題がたくさんあるということを議論しました。また、市民まちづくり塾や審議会での様々なご意見をいただいていますので、できる限り反映させて、より良い総合計画にしていければと思います。

(委員10)

常会の加入促進ということについてですが、災害に関しては、ハード面が整っていても、最後はソフト面が重要になってくると思います。高齢者の問題にしても、日々の生活の中で、地域の隣近所のつながりをはじめ、人のつながりが大切になっています。行政を中心に取組を進められているとは思いますが、地域住民の支えが大切であると思います。

私たちの地域では、災害時には常会に入っておられる方も入っておられない方も連絡網を作り、連絡をとり合って声掛けをしています。行政だけではどうにもならないところがありますので、そういう優しい心、支える心、つながる心が重要だろうと思います。そういった点を加えていければ良いと感じました。

(伊藤会長)

資料4-1の2番目に“ツナガリ人口”が取り上げられていますが、地域外の方だけではなく、三次に住んでいる方々の中でも、心がつながりあって、共感し合い、助け合うということも重要であると感じました。

(委員4)

住民自治組織としては、常会に加入されようがされまいが、災害時はみんな一緒です。特に、消防団の方については、災害の際には、献身的に身を挺して活動されておられ、そういった状況を含めて、常会の加入を促進するというよりは、主に隣近所の声掛けを中心に、地域活動を進めていこうと思います。

また、まちづくりを進めていく中で、高齢者だけが集まって物事を決めてしまいがちになってしまっていますが、若い方や子育て世代の方々を中心にしたまちづくりを展開し、高齢の方がバックアップできるような地域づくりになればいいなと常々思っているところです。

(委員6)

資料4-1「子どもの未来応援」について、子どもの貧困がクローズアップされている状況ということですが、市内の中学校では、お弁当かデリバリー給食を選択できるようになっていると思います。お弁当が作れる家庭は持っているのですが、いろいろな事情がある子どもについては、デリバリーを希望されています。デリバリーが中止になることが、年に何回がある中で、お弁当を持っていけないご家庭の場合は、やむを得ず学校を休むというような状況があるようです。市内には給食を提供される中学校があるかと思いますが、要望としまして、すべての中学校に給食施設を作っていただきたいと思います。心が満たされて、豊かな心を育成できるだけでなく、学力の向上にもつながると思います。

(委員14)

資料4の「災害に強いまちづくり」について、「災害に強いひとづくり」という項目も加えていただきたいと思います。

また、少子高齢化については、いくら少子化を緩和しようとしても、結婚して子どもを産まない

と人口は増えないと思います。結婚に対する支援も考える必要があると思います。

(委員15)

ご提示された資料については、内容としては非常に充実していると思います。今までの議論の中で重要だと感じたのは、人口減少・少子高齢化への対応だと思います。定住人口や交流人口へのアプローチだけではなかなか状況が改善されない中で、“ツナガリ人口”という概念で何とか未来を切り拓こうと考えられているのだと思います。しかしながら、生産年齢人口も減ってくる中で、現状は厳しいという印象です。

人口推計がありましたが、このまま進むと社会がどういった社会になるのか、何もしなければどういった状況になるのかといったことについても触れておく必要があるかと思います。その辺が見えてこない中で、頑張れといっても何を頑張っているのかといった状況になるのではないかと懸念があります。

あわせて、重点項目の中に、医療や介護については触れておられないのですが、一つ付け加えさせてもらおうと、地域医療構想の中で、備北の圏域で病院のベッド数を減らそうという流れがあります。トータルで300床ぐらいの減少を見込まれる中、今後受け皿がなくなるのではないかと懸念があります。

また、高齢化が進む中で、当然医療費は増えていきますが、特に終末期医療、延命に対して多くの医療費がかかっている状況で、それが果たして本人の幸せにつながっているのかといった見方もあります。これまでは、人の命をお金で評価するのかといった意見もあり、タブー視されてあまり議論になってきませんでした。今後、高齢化が進み、高齢者の割合が40%になるという状況の中で、「死に方」、逆に言うと「生き方」の議論も必要だと思っています。

(委員16)

私は甲奴町で国際交流に携わっています。旧甲奴町の時代から約30年近く続いている事業で、交流の進化や成果が出てきているところです。今は、甲奴支所の職員を含め、市でバックアップしていただきながら進めているところですが、行財政改革を進められる中で、量の削減から質を充実していくという大変難しい課題が生じています。私が見る限り、支所も含め、市職員は、非常に多くの仕事をされており、残業も多いように感じます。安定性はあるかもしれませんが、忙しくてしんどい、あまり感謝されないというような状況の中で、本当に市の将来を担い、自分の生活を含めて自己実現できるのかといった懸念があります。職員の皆さんがプライドを持って働けるような環境にしておかないと、将来的に行政がうまく成り立たなくなるのではないかと感じています。

(委員18)

私から2点ほどお話しさせていただこうと思います。

まず1点目ですが、資料の中にも出ていますが、観光分野でインバウンド対策の取組が重要であると記載されています。三次河川国道事務所でも、庄原市にある国営備北丘陵公園を管理している関係もありまして、中国地方全体から人に来てもらうような取組を進めておりますが、なかなか上手くいっていない状況があります。中山間地域にある施設が単独で取り組んでも上手いかわからないといった状況がありますので、関連市町村(庄原市、安芸高田市、三次市)が一緒になって連携した取組が必要であると感じています。あくまでも三次市の総合計画ということなので、表裏的には触れられていませんが、実際に取り組む際には、そういった視点も含めて進めていく必要があるかと思っています。

2点目ですが、本日もいろいろと防災関係の話がありましたが、7月の豪雨災害につきましては、昭和47年に発生した災害に匹敵する規模であり、様々な被害が発生しております。今回の場

合は、堤防の決壊は免れたということで、たまたま良かったものと理解していただければと思います。一方で、避難指示が出ていたにも関わらず、実際に避難された方はごく僅かだったと聞いております。全国的にも、避難率を高めていくことが重要であるということで、本日お話いただいたように「自助」「共助」については、特に促進を図る必要があるということが言われています。そういった中で、書いてありますような自主防災機能の強化が重要であると思いますが、具体的にどう強化していくのかということが非常に難しいところです。特に、三次のように中心市街地とそうではない地域では考え方が変わってきますので、避難計画を作成するに当たっては、地域に見合った計画を作っていく必要があるかと思います。国としても支援してまいりますが、今後もこういったことを踏まえた上で、進めていただければと思います。

(委員19)

本日は皆様方の貴重なご意見をたくさん聞かせていただきまして、大変勉強になりました。保健所では三次市と連携をしながら、切れ目がなく、妊娠から出産、そして生涯にわたって健康で住み続けていけるような健康づくりを推進していきたいと考えています。本日のお話の中で、やはり住民同士の対話がとても重要だと感じました。

資料3の6ページに「こころの健康づくりと自殺対策の強化」とありますが、三次市でも昨年度、自殺対策の計画を策定されておられるところですが、広島県でも様々な取組を進めており、自殺率は低くなってきているところですが、しかしながら、備北地域については、他の地域と比べて高い状況が続いています。一人の自殺は、周りの方にとっても大きな心の痛手を伴うものになりますので、困ったときに相談できるような力を子どもの時から身に付けていただき、相談を受けた時に適切なアドバイスができるような仕組み(例：住民がゲートキーパーの役割を担うなど)が重要だと思っています。

また、7月の豪雨災害の際に、様々な避難所や家庭を訪問させていただきましたが、そこで感じたのは、住民のリーダーの方が丁寧に声掛けをされている地域は、皆さんが元気な様子だということです。地域の住民力が発揮され、日頃から災害弱者と言われている子どもや障害をお持ちの方、高齢の方を地域で守っていけるような体制づくりが大切だと思います。

広島県では、高齢者に限らず、生まれてから切れ目のない地域包括ケアを推進していくということで、地域の課題を洗い出して、解決していこうと進めておりますので、そういった立場から総合計画の見直しにも関わらせていただきたいと思っています。

(委員21)

資料4-2の2番目と3番目の重点項目の「ひとづくり」には何も文言が入っていませんが、先程のお話を伺って、とにかく自分の命を守るというような防災教育に取り組んでいた地域は、災害があっても亡くなる人がいなかったという話を聞いたことがあります。避難計画もそうですが、一人ひとりに周知する中で、「災害に強いひとづくり」を進めていく必要があると感じました。

自殺率に関する話がありましたが、地域のつながりを高める中で解消できることもあると思います。広島市では、若い世代は面倒で自治会に入らない、子どもが小学校に入学し、おやつがもらいたいから子ども会に入るけれど、子どもが独立したら、役員をするのが嫌でまたやめるといった状況があります。いろいろと世話をしてくださる高齢者の方がいらっしゃいますが、そういった方々を若い世代の人たちは受け入れられないという状況があるように見受けられます。祖父母と一緒に暮らしていないという状況の中で、若い親や子どもたちは、祖父母に対する嫌悪感を抱くようになりがちです。祖父母がいて、親がいて、自分があるということを考えることができるような「ひとづくり」が重要であると感じています。

結婚についてのお話もありましたが、それについてもこれまではつながりの中で進んでいた面も

あるかと思いますが、若い世代の方々がそういった状況を受入れられなくなっているように感じています。

高齢化について、避難できないお年寄りをどうするかという話し合いに参加したことがあります。消滅寸前の集落において災害があった際には、自治活動がどうこの話では無く、行政の方が生きているかどうかの安否確認をするような状況です。それが、高齢化が進んだ先に見える悲しい状況だと思っておりますので、若い世代の方々や三次で生まれた人たちに、この地に帰ってきてもらうという強い思いを実現できる仕組みや仕掛けを、この総合計画に盛り込めていけたらと思っています。

(委員 2 2)

本日、皆様のお話を伺う中で、基本的にはここに示されている方向性はとても良いものだと思います。

一例を紹介しますと、私の身近に、三次で生まれて育って、今三次を離れている若者がいますが、その若者に「あなたは総合計画を知っていますか。」と聞いたところ、「もちろん知っています。」と答えました。きっと彼はいつかは三次に帰ってくるつもりなのだろうと思いました。その意味でも、「いつまでも住みたい地域、いつかは帰ってきたい地域」というフレーズは、一つの大きな目標になっていくように感じています。

人口減少・少子高齢化という大きな課題に取り組んでいくことは大変ですが、その課題から目を逸らすのではなく、何ができるのかを皆さんで考えておられることは、すばらしいことだと思います。しかも、いろいろな方がいらっしゃる中で、わかりやすい言葉で書いていくということは、とても重要なことだと思います。また、「対話」という言葉が今回加わったことについても、非常に重要なことだと思います。この総合計画の中で、変わらない部分(趣旨や方針)は堅持しつつ、変えなければならない部分をどうしていくのか、その具体的な方策を打ち出すために必要な視点として、今回提示された3つの重点項目はとても良いのではないかと思います。

「未来を拓く」「変化を起こす」「生活を守る」についてですが、これらは個々に存在するのではなく、すべてが関連していくものだと思います。未来を拓くためには変化を起こさなければならない、様々な場面で変化を起こすためには、まず生活をきちんと整えなければならない、生活を整えていくことができれば、変化を起こす元気も出てくる、そのためには人と人、行政と市民がきちんと「対話」をしなければならない、といったように、それぞれが関連し回っていくものになっていくように思います。このことがいつも皆さんの心にあれば、原点に振り返りながら、少しずつ前に進めるのではないかと考えたところです。

資料の4-2については、まだまだ入っていない部分があるかと思いますが、できるところから埋めていくことが、これからの仕事なのではないかと思いました。変わらないものを意識しつつ、変えなければならぬところを進めていただければと思います。

(伊藤会長)

介護や医療の問題、広域的な観光振興、公衆衛生、さらに「ひとづくり」といった貴重なご意見をいただきました。

(委員 1 3)

私も「ひとづくり」が大事だと思っています。「子どもの未来応援」「“ツナガリ人口”の拡大」「災害に強いまちづくり」のいずれも人材育成が大事だと思います。三次に住む人が思いやりのある人になっていくことで、魅力あるまちにできるのではないかと思います。

(委員11)

資料2の13ページに、今回「対話」という言葉が入りましたが、三次らしさを出すための案として「互助」という言葉を加えたらどうかと思います。お互いのことを思いながら、この3つの重点項目を高めていくということが三次らしさにつながると思いました。

(伊藤会長)

この計画では「互助」は使われていませんが、「自助」「共助」という表現をされていると思いますので、確認いただければと思います。

まだまだご意見もあろうかと思しますので、資料を持ち帰られて、感じられたことがありましたら、来週の早いうちに事務局にお知らせいただきたいと思います。

本日は、非常に長時間にわたりご議論いただきありがとうございます。それでは、事務局にお返し致します。

4 閉会

(事務局)

長時間にわたり熱心にご審議いただきまして、誠にありがとうございました。本日はいただきました意見を踏まえて、資料を修正等させていただきたいと思います。

資料4でご説明させていただきました3つの重点項目に基づいて、総合計画を整理させていただきたいと思っております。資料2の15ページには、基本的な総合計画の体系図として基本理念、めざすまちの姿、その実現に向けた基本的なまちづくりの視点や大切にしたいことなどを整理しておりますが、先程、ご説明をさせていただきました重点項目を加えて整理させていただき、委員の皆様にもお示しさせていただきたいと思っております。

次回の審議会ですが、9月28日(金)10時から三次市役所で開催をさせていただければと思っております。

今後の会議におきましても、忌憚のないご意見を頂戴致したいと思っておりますので、よろしくお願いを致します。

本日は誠にありがとうございました。